



防災カフェ ☕ - キャンプ用品が防災に -

平成28年4月に発生した熊本地震では、観測史上初めて同一地域において震度7の地震がわずか28時間の間に2度発生するなど、多くの地域で震度6以上の大きな揺れが発生し、家屋等の倒壊など大きな被害をもたらしました。

指定緊急避難場所だけでは不足陸上競技場をテント村として臨時開放し、多くのかたがテントでの避難生活を送ったそうです。

車中泊ではエコノミークラス症候群のリスクが高まるほか、体育館等の避難所はプライバシーの確保が困難なようでした。

このころから、テントをはじめとする寝具やマット、ランタンなどのキャンプ用品が防災アイテムとして、災害時に有効であるとキャンプ利用を兼ねて備蓄され始められたようです。

キャンプ用品の備蓄としては、テントのほか

タープ、寝袋、アルミマット、カセットコンロ、バーベキューコンロ、炭のほか、100円ショップで販売しているLEDライト、乾電池など他にも安く手軽に備蓄できるものは揃えておくと思います。

キャンプ用品の備蓄は、防災時の非常用としてしまっておくだけでなく、年に1,2度は点検を兼ねてキャンプやバーベキューで楽しむなど、実用的で防災備蓄としても大変有効な用品です。



●詳細 危機対策係 ☎27-7058



二輪車の交通事故防止 ～運転は ゆとりとマナーの 二刀流～

○交通ルール・マナーの遵守

スピードの出し過ぎは、カーブで曲がりきれずに路外逸脱事故などに繋がるおそれがあり、無理な追越しは正面衝突を引き起こす要因になります。また、ちょっとした路面の変化によりバランスを崩し、転倒してしまうおそれがあるので、交通ルールやマナーをしっかりと守りましょう。

バイクは車体が小さく、他の車のドライバーからは、ミラー等の死角になって見落とされたり、距離感や速度感覚がわかりにくく、交通事故当事車両になるケースがあります。運転する際には、前の車両とは車間距離をしっかりととり、自動車の死角にならないよう走行しましょう。

○ゆとりをもったツーリング

バイク仲間とツーリング中に、自分の遅れを取り戻そうと無理な運転をして交通事故を起こすことが考えられます。仲間とツーリングをする際には、仲間同士でゆとりをもった計画を立てることや、仲間から離れてしまった場合の集合場所をあらかじめ決めておくことが大切です。

●詳細 芦別警察署 ☎22-0110